

インフラメンテナンスに係るグッドプラクティス（具体例）

（※凡例：ア 維持管理・更新を支える優れた工夫、イ インフラを支える活動、ウ 技術開発）

番号	事例名称	該当事項 (ア,イ,ウ※)	実施主体	概要
参考 1	寺山ダムESCO事業	ア	栃木県	<p>○寺山ダムを活用したESCO事業。</p> <p>○栃木県が予算をかけずに(ゼロ予算で)考案し、事業化した全国初の取組。</p> <p>○民間事業者との協働により、創エネと省エネを同時に実現。</p> <p>○照明・空調設備の省エネタイプへの更新、ダム管理に係る電気料金の支払いを民間が実施し、維持管理コストを縮減。</p>
参考 2	道路維持工事における性能規定発注方式の試行	ア	関東地方整備局 大宮国道事務所	<p>○平成22年度から大宮出張所管理区間において、巡回、舗装管理などの複数の業務をまとめて複数年度で包括的に民間に委託する試行を実施。</p> <p>○舗装管理には性能規定を採用。</p> <p>○民間のノウハウ等を活かし、指示・協議を減らして効率的に業務を執行。</p>
参考 3	ちばレポ	イ	千葉市	<p>○「道路が傷んでいる」「公園の遊具が壊れている」といった地域での困った課題を、スマートフォンやパソコンなどを使って市民がレポートすることで、市民と市役所、市民と市民の間でそれらの課題を共有し、合理的、効率的に解決することを目指す仕組み。</p> <p>○市民のコミュニティ意識を醸成し、社会参加を促す効果。</p> <p>○レポートにより蓄積された道路に関するデータとプローブデータや道路台帳データなど掛け合わせ、より価値ある情報を見出し、高度なアセットマネジメントの実現に寄与する研究も実施。</p>
参考 4	岐阜大学社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成ユニット	イ	岐阜大学	<p>○行政土木職員及び建設関連業界技術者を対象とし、短期集中カリキュラムにおいて所定の科目を履修することにより、産官共通の高度な知識を持った総合技術者(社会基盤メンテナンスエキスパート(ME))を養成するもの。</p> <p>○岐阜大学において履修証明を受けた後、試験に合格することでMEに認定される。</p> <p>○講座は、アセットマネジメントを効率的かつ効果的に行うための知識を習得するための座学、ライフサイクルコストの最小化、品質管理や工程管理などの実務的な知識を習得するための演習、フィールドで維持管理や防災業務の能力を向上させる実習で構成。</p>
参考 5	高度な画像認識技術による管渠マネジメントシステム	ウ	日本下水道事業団	<p>○地方公共団体が抱える膨大な下水道管の全路線を限られた予算かつ定められた頻度(10年間隔)で詳細に調査することは困難である。このため、簡易的な調査で大きな異常を発見することで詳細な調査を実施する箇所を絞り込むスクリーニングが有効である。</p> <p>○本技術は、下水道管の改築更新に係る対象範囲を絞り込むためのスクリーニング調査技術であり、異常箇所を自動的に検出する画像認識技術の利用による異常診断の省力化を図るとともに、内蔵電源に伴うケーブルの軽量化を実現し、日進量の向上や調査コストの削減を可能としている。</p>

《備考》

- ・ここにあげる事例は、グッドプラクティスの応募にあたり、該当事項の分類や具体的な取組の程度の参考となるものとして、事務局(国土交通省総合政策局)で選定し、例示しているものです。
- ・地域や事業によって背景や前提条件等はさまざまであり、ここにあげる事例と同様の取組ができるものではありません。